



秋の叙勲、褒章

旭日章光章

前奥出雲町農業委員会会長
村上 博さん(亀嵩)



村上さんは、平成二年に仁多町農業委員会委員に当選以来、二十一年の永きに亘り、農用地の利用調整や指導相談活動に積極的に取り組み、平成十一年七月には会長就任されました。その後、平成二十三年七月の改選まで、農業委員の資質向上に向けた意識改革などに積極的に取り組まれました。

また、奥出雲町耕作放棄地対策協議会の初代会長、島根県農業会議常任会議員などを歴任し、島根県の農業委員会系統組織のリーダー的存在として大きく貢献された功績が認められ叙勲の栄に浴されました。

藍綬褒章

自然公園指導員
小早川 正彰さん(天馬木)



小早川さんは、昭和五十三年に自然公園指導員に委嘱されて以来、三十三年の永きに亘り、比婆道後帝釈国定公園の船通山・吾妻山や比婆山々を中心に活動を続けられています。

この間、自然公園内の動植物保護や美化清掃、自然登山道の巡回点検など積極的な環境保全活動に取り組むほか、小中学生の教育キャンプや総合学習における指導など、将来を担う子どもたちへの自然環境保護の普及啓発に尽力されています。

こうした永年に亘る功績が認められ褒章の栄に浴されました。

おめでとうございます

地域の産婦人科を支え 友塚義人副院長(奥出雲病院)が表彰受賞

町立奥出雲病院の友塚義人副院長が、全国自治体病院開設者協議会並びに全国自治体病院協議会(東京都)から、「へき地医療貢献者」として会長表彰を受賞されました。

友塚副院長は、県立中央病院産婦人科医長などを歴任され、平成3年4月に町立仁多病院(当時)の産婦人科医長に着任、平成15年4月から副院長に就任されました。

この間、年間約100例の分娩をほぼ一人で対応し、平成3年の着任以後とりあげた赤ちゃんは2500人を超えています。

また、働く女性が受診しやすい夕方に子宮がん検診を実施し、住民本位の検診に取り組むなど、奥出雲町の産婦人科医療に大きく貢献されています。



島根県神話絵画コンクール 藤原恵太さん(阿井小4年)が島根県知事賞受賞

来年の古事記編纂1300年を前に、神話をテーマに絵を描くことで郷土の魅力を再認識してもらおうと島根県と県教育委員会が主催した、「第1回島根県神話絵画コンクール」で、藤原恵太さんの作品「がんばれスサノオ」が、小学校3・4年生の部において、50校420点の応募の中から最優秀の島根県知事賞を受賞しました。



▲藤原恵太さん(上)と受賞作品「がんばれスサノオ」(右)



作品は、四つ切サイズの画用紙に、スサノオがヤマタノオロチを退治する神楽の一場面が水彩絵の具で描かれ、繊細かつ立体的なオロチと、乾いた筆に絵の具を付けて描いたという白い煙が、臨場感を引き立てています。

藤原さんは「オロチの鱗や周りの煙を描くのが難しかったけど、神楽が好きなので頑張って描いた。受賞できてうれしいです」と受賞の喜びを話していました。

里見香奈

倉敷藤花・女流名人・女流王将

第19期大山名人杯

倉敷藤花戦

奥出雲で第一局

女流棋士タイトル「倉敷藤花」の第19期戦第一局が十一月六日、亀高温泉「玉峰山荘」で行われました。この倉敷藤花戦が、東京都と岡山県倉敷市以外で行われるのは、タイトル史上初めてのことです。

幸せ。応援への感謝を胸に一杯頑張りたい」と、清水女流六段は「進化を続ける里見藤花から学びつつ、自分らしい将棋を指して皆さんの応援に応えたい」と意気込みを語りました。

張り詰めた空気が対局の始まり

対局前日の十一月五日、里見香奈倉敷藤花と挑戦者の清水市代女流六段、日本将棋連盟専務理事の谷川浩司九段などを迎えた前夜祭が玉峰山荘で開かれ、関係者など約百三十人が参加しました。

出席した倉敷市の河田育康副市長や井上町長からは、奥出雲町での対局開催を歓迎し、熱戦を期待するあいさつがありました。

対局室には、立会人の井上慶太九段や河田倉敷副市長など十三人の関係者が緊張の面持ちで始まりを待ちました。はじめに清水女流六段が一礼して入室。席に着くと目を閉じ里見藤花を待ちました。程なくして里見藤花が入室し席に着くと、室内は静寂とともに張り詰めた空気になりました。溝口善兵衛島根県知事の振駒により里見藤花が先手となり、午前十時対局が始まりました。



▲前夜祭の様子

二百人を超える観客が大広間には井上九段と井道千尋女流初段による大盤解説



▲井上九段(右)と井道女流初段(左)による大盤解説

里見藤花が第局を制す

白熱した対局は、午後三時二十四分、百十三手で清水女流六段が投了し、里見藤花の勝利が決まりました。

大盤解説会場に登場した里見藤花は「思い切った指せのが良かった」と、清水女流六段は「反撃に対する読みが甘かった」と五時間半に及ぶ熱戦を振り返り、好勝負を繰り広げた両棋士には、会場からは大きな拍手が送られました。

女流プロ棋士が手ほどき

倉敷藤花戦前日の十一月五日、女流プロ棋士クラブ「駒桜」の六人と井上慶太九段による指導対局会が開かれ、町内の小学生をはじめ約百二十人が手ほどきを受けました。



▲指導対局の様子